

1 組織の使命（どのような役割を担うのか）

小倉北区は、交通や都市機能が充実し、様々な人やモノの情報が集まる北九州市の都心部であると同時に、独自の歴史・文化や特性を持つ地域の中で、多くの市民が暮らし、コミュニティを形成するまちである。そのため小倉北区役所は、市全体の賑わい創出の場としての意識を持ちながら、区民や市内外からの来庁者の多様なニーズ・期待に応え、将来にわたって地域が栄えていくための活動をしていくことが基本である。ただ、それらは今後ますます多様化し、ボリュームも増してくると想定する。つまり、変わらない区役所では区民サービスや職員の能力発揮も望めないし、地域の力も弱っていく。

そこで、3～5年、10年後を見据え、区役所に供給されるマンパワーをより効果的に活用し、区役所が区民や地域のニーズ・期待に応え、区民が快適に市役所を利用できるよう、また、地域が持続可能な基礎力を持ち続け、さらに観光大都市への進化にも貢献するように、「区役所」「まちづくり（地域）」「観光」の3つの柱について、改善・改革の火種を作るアクションを行っていくもの。

2 基本情報

(1)令和7年度区全体当初予算額

記載不要

(2)組織(課名) (R7.4.1付)

総務企画課、コミュニティ支援課、市民課、国保年金課、まちづくり整備課、
保健福祉課、保護第一課、保護第二課、保護第三課

(3)所管の政策連携団体

なし

(4)所管の主な公共施設(運営方法:直営、指定管理、その他)

直営	・小倉北区役所庁舎	・小倉行政サービスコーナー
	・市民センター(21館)	・市民サブセンター(1館)

3 令和6年度局X方針の振り返り

○全体の振り返り(総評)

市民サービス向上に向けたスマートな区役所の推進やイベント等を通じた小倉都心部の賑わいづくり、カスタマーハラスマント対策による安心安全な区役所づくり等については一定の成果があった。

一方で、更なるDX・AI活用の推進や区役所環境の改善、地域コミュニティの活性化につながる人材発掘・育成など、引き続き注力すべき課題も残っている。

○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果

・「小倉イルミネーション」「コクラBEAT」との一体的な実施や、「ストリートダンスコンテスト」を会場外の街中へも波及させる取組などにより、小倉都心部の賑わい創出につながった。

・総務市民局や区役所等と連携して、カスタマーハラスマント対応のガイドライン等を策定し、来庁者や職員にとって安全安心で快適な区役所づくりを進めた。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容(理由)・7年度に向けた考え方

・スマートな区役所のモデル区として、オンライン予約の試行や「キオスク端末」の活用促進などに取り組み、一定の成果は上がっているものの、区役所の諸手続きや事務処理等においては、依然として手作業や紙ベースでの処理が多く残っており、R7年度も引き続きDX・AI活用を強力に進める必要がある。

・地域コミュニティの現状やニーズ、課題の把握はできているものの、その分析やサポートの在り方の研究等については、R7年度の新ビジョンの策定とも連動しながら、引き続き取り組んでいく必要がある。

課題領域A

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
まちづくり	(1)多様な人々が気軽に交流できる地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> これまでの地域活動への支援に加え、子育て層や若者など多様な人々が気軽に参加できる地域の文化・スポーツ振興に向けた支援を行う。 子育て世代が、地域活動に参加するきっかけ・接点を増やすため、市民センターへの来所頻度のアップを促す事業を試行する。
区役所改革	(2)市民サービス向上やまちづくりにつながる業務改革・環境改善	<ul style="list-style-type: none"> 区役所諸手続きにおいて、より市民にとってストレスのない窓口の実現に向け、予約システムやオンライン申請のシステムや運用の改善・拡大について提案し、スマらく区役所の先行モデルを目指す。 区役所の事務処理等において、AI活用の推進や各種手続きの簡略化などを提案し、モデル的に試行する。 庁舎環境の再点検を進め、市民目線での案内サインづくりや動線の見直しなどを行う。 職員の人材育成として、他区とも連携し、政策立案力の向上に向けた実践的な研修を実施する。

課題領域B

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
まちづくり	(1)地域の実情に応じた地域づくりへのサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情・ニーズについて、調査分析を行い、それぞれの特性に応じた支援メニュー等を研究する。 ・地域活動に、新たな外部マンパワーの参画を促進するため、自治会等と企業等の双方のニーズや条件等の調査研究を行う。
まちづくり	(2)地域における外国人との共生	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で最も外国人住民の多い小倉北区において、外国人住民が地域コミュニティと共生できるよう、啓発事業や交流事業などのモデル事業を試行する。
観光大都市への進化	(3)小倉北区内の観光資源の掘り起こし・情報発信の強化、並びに区の垣根を超えた周遊観光の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・小倉北区は、メジャーな観光スポットや歴史資源等が多くあり、小倉南区には豊かな自然と豊富な地元食材がある。観光大都市としての更なる魅力向上につなげるため、地域やまちづくり団体等と連携しながら、小倉北区・南区の地域資源をさらに発掘・洗い出しを進め、小倉南北で連携した周遊企画をモデル実施する。

小倉北区 X方針 課題一覧

課題領域C

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
区役所改革	(1)小倉北区役所庁舎のあるべき姿の実現に向けたプランづくり	・市民目線を最優先し、職員の柔軟な働き方が可能となる区役所の実現に向けて、未来志向で区役所庁舎のあるべき姿について研究し、プラン素案づくりに着手する。

【凡例】

○課題領域

- A ①行政サービス現場改善にかかる課題
- B ②課題の掘り起こしが済み、変革の実行段階にあるもの
③課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
- C ④将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4 課題

課題A（1）多様な人々が気軽に交流できる地域づくり

【政策分野：まちづくり】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:高】

②課題の内容

- 既存の地域コミュニティの中には、慢性的な担い手不足と、それによる地域活動の停滞などが課題となっているところもある。そのため、多様な人々が気軽に交流でき、地域活動に参加するきっかけとなる機会や仕組みづくりが求められている。

③課題の背景や現状

- 地域活動は、主にまちづくり協議会をはじめ、自治会やPTA、婦人会といった地縁団体が担い手となっていたりしている。しかし、近年の少子高齢化や共働き世帯の増加等により、新たなメンバーの参加が減り、担い手不足が続く中、コアメンバーの高齢化や固定化の傾向がみられる。
- 小倉北区は他区と比べて、市内外から転入してきた子育て世代や学生、企業や商店、外国人住民といった、新たな地域の担い手となり得る住民等が多く存在しているが、地域との接点が少なく、地域活動への参加につながっていない。

④目指す成果 – 市民にとって何がどう変わらのか(サービスの質や価値、市民の実感) –

- 多様な人々が気軽に参加できる文化・スポーツイベント等を通じて、これまで地域との関わりが少なかった人々や団体等が気軽に交流できる場・機会をつくり、地域における顔の見える関係(地域内の顔見知り)を増やすことで、地域活動の担い手の拡充が期待できる。
- 地域活動に、参加意欲のある学生や企業、NPO等、新たな外部人材の参画促進が期待できる。(あわせて、地域活動の活性化や新たな担い手の発掘・創出につながる可能性にも期待ができる)。
- 日頃、市民センター利用の少ない子どもや親の来所頻度アップを促す事業を試行することで、子育て世代が地域コミュニティ拠点である市民センターに馴染みができ、その中で、地域活動に参加するきっかけ・活動するとの接点を持つもらうことが期待できる。

4 課題

課題A（1）多様な人々が気軽に交流できる地域づくり

【政策分野：まちづくり】

⑤令和7年度の取組内容(四半期間隔)

(1)多様な人々が気軽に参加できる文化・スポーツ振興に向けた支援

地域と協議の上、これまで地域との関わりが少なかった住民等でも、誰もが気軽に参加できる文化・スポーツ振興に向けた支援を行う。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・イベント実施方針の検討	・イベント実施にかかる地域との調整	・イベント実施の支援	・事業の振り返り（効果検証）

(2)子育て世代の市民センターへの来所頻度のアップを促す事業の試行

日頃、センター利用の少ない子育て世代が、地域活動に参加するきっかけ・接点を増やすため、子育てに関する情報交換会や、子どもの合同宿題会などの新たな企画を一部試行する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・市民センターとの協議	・事業実施にかかる調整（人材確保等）	・事業実施（地域活動の案内）	・事業の振り返り（効果検証）

⑥進捗状況（令和7年12月時点）

●取組内容(1)多様な人々が気軽に参加できる文化・スポーツ振興に向けた支援

スポーツイベントとして、誰もが気軽に参加できるニュースポーツ「バッゴー」を種目とする区内全校区対抗によるスポーツ大会を、令和8年2月に開催するほか、他のニュースポーツへも幅を広げるため、今年度一部市民センターで実施する新たな競技「ボッチャ」の横展開の手法検討を行うこととしている。また、文化イベントとして、旧小倉市制125周年を記念し、小倉北区・南区合同で、雛飾り等を展示した両区の全市民センターを巡る「ひなまつりスタンプラリー」を、令和8年2月～3月の期間に開催する。

●取組内容(2)子育て世代の市民センターへの来所頻度のアップを促す事業の試行

今年度より、市民センターでの子育て世代の利用促進を目的とした企画を促進するため、同企画に取り組む市民センターへの支援事業（経費）を実施し、令和7年12月末時点で10市民センターで子育て世帯を対象とする体験イベント等を実施した。

親子で楽しみながら走り方のコツを学び、グラウンドで実技指導まで受けられるというものや、子どもたちや保護者と一緒に校区オリジナルキャラクターを3D化するプロジェクトなど、館長を軸とした市民センター関係者により、これまでにない自由な発想で企画し実施した。

4 課題

課題A（2）市民サービス向上やまちづくりにつながる業務改革 【政策分野：区役所改革】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:高】

②課題の内容

- ・市民の利便性向上や一人ひとりに寄り添った相談対応やサービスの提供、まちづくりの推進などに向け、手作業や紙ベースでの処理が多く残っている区役所の諸手続きや事務処理等におけるDX・AI活用の推進や庁舎環境の改善、職員の能力向上に向けた人材育成が求められている。

③課題の背景や現状

- ・これまで、小倉北区役所は、スマらくのモデル区役所として、いち早く、窓口相談予約やオンライン申請システムを導入し、一定の成果は上がっているが、必ずしも使い勝手が良いとは言えず利用率の低い申請項目や、ペーパレス化・DXが進んでいない手続き等も依然として残っている。
- ・内部事務処理についても、国等の制度の頻繁な追加・変更や公的支援対象の拡大などに加え、ペーパレス化・DXが遅れている事務や簡略化の余地のある手続き等がまだ多く残っており、区の職員は、非効率で膨大な手作業や紙ベースでの処理に追われている状況である。
- ・庁舎環境については、R6年度にユーザー目線での点検・改善を行っているところであるが、まだ改善の余地は残っており、継続的な点検と改善のサイクルを回していく必要がある。
- ・職員の人材育成については、職員のモチベーションを高め、政策立案などの能力を伸ばすための実践的な研修等を実施していく必要がある。

④目指す成果 －市民にとって何がどう変わらのか(サービスの質や価値、市民の実感)－

- ・スマらく区役所等の窓口サービスのDX・AI活用の推進により、市民のストレスが低減し、利便性が向上する。
- ・DX・AI活用による事務処理の効率化や省力化、各種手続き等の簡略化などにより、職員のマンパワーをより有効に活用し、コア業務である相談対応やまちづくりに注力できるようになり、市民に提供するサービスの質が向上する。
- ・市民が迷わず、スムーズに来所目的を達成できるよう、市民目線で庁舎環境の再点検と改善を続けることで、区役所を利用する市民にとっても、働く職員にとっても、より気持ちよく快適に過ごせる区役所とする。
- ・職員の人材育成として、他区とも連携した人事交流や区役所内の交換業務体験などの研修を実施することにより、職員のモチベーション向上を図るとともに、事務改善や政策立案などの能力が高まることが期待される。
- ・区役所職員の能力が高まることで、市民と接する現場において、きめ細かいニーズの汲み取りや先進的な取組が進み、更なる市民サービス向上につながるという好循環が生まれる。

4 課題

課題A（2）市民サービス向上やまちづくりにつながる業務改革 【政策分野：区役所改革】

⑤令和7年度の取組内容(四半期間隔)

(1)区役所の諸手続きにおけるDX活用の推進

スマらく区役所(オンライン手続き、窓口予約システム、キオスク端末、バックヤード業務の集約化等)の推進に向けて、区からシステムや運用の改善・拡大案を提案し、モデル試行する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・利用状況等の現状把握	・課題の洗い出し、改善・拡大案の提案	・本庁部署と連携した課題解決案の検討	・モデル試行、振り返り

(2)内部事務の効率化・省力化に向けたAI活用、手続き簡略化等の推進

内部事務の効率化・省力化や各種手続きの簡略化等を実現し、職員のマンパワーをより有効に活用するため、実務を担当する区の職員から、AIの活用や手続き等の簡略化などの改革案を提案し、モデル試行する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・各課業務の現状把握、課題の洗い出し	・区における改革提案の検討	・本庁部署と連携した改革への着手	・モデル試行、振り返り

(3)職員の政策立案力向上に向けた実践的な職員研修の実施

職員の人材育成として、モチベーションアップとともに、効果的な事務処理手法や新たな市民サービスの提案といった政策立案に係る能力の向上に向け、他区との連携や交換業務体験なども含めた実践的な職員研修を企画・実施する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・研修方針の検討、企画	・職員研修の実施	・職員研修の実施	・職員研修の実施、振り返り

⑥進捗状況(令和7年12月時点)

●取組内容(1)区役所の諸手続きにおけるDX活用の推進

令和7年7月末から、国保年金課における国民健康保険の加入届について、他区に先駆けてオンラインでの受付を開始。

また、昨年度より、小倉北区が先行実施していた窓口予約システムにおいて、国保年金課と保健福祉課、市税事務所間の手続に関するメモ機能を活用し、市民の来庁目的をスムーズに引き継げるよう、運用方針を見直す検討に着手している。

●取組内容(2)内部事務の効率化・省力化に向けたAI活用、手続き簡略化等の推進

令和7年9月からDX・AI戦略室と協働で、市民課、保健福祉課、保護課の一部業務におけるAI実証実験を実施。適宜振り返りを行いながら、高い効果が見込まれるものについては継続実施中。

●取組内容(3)職員の政策立案力向上に向けた実践的な職員研修の実施

入職間もない職員や本庁勤務経験のない職員を対象に、各自が今後のキャリアを考えるヒント・契機とするための「本庁のお仕事紹介」研修を令和7年7月末に実施。

また、11月から12月にかけては、小倉南区役所と連携し、相互に職員を派遣し合って、各区の事務処理等の手法や参考にすべき点などを相互に学び、持ち帰って改善につなげる「区役所トレード研修」を実施。

課題B (1) 地域の実情に応じた地域づくりへのサポート

【政策分野：まちづくり】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:低】

②課題の内容

- ・区役所において、地域の実情(子育て層が多く地域活動が行われている校区、高齢化が進み旧来の活動に不安が生じつつある校区、単身者が多く地域活動への参加者が減少傾向にある校区等)については、その傾向を概ね認知しているものの、詳細な分析や支援メニュー等の研究までは十分にできていない。
- ・小倉北区には多くの企業や学校等が集積しているが、地域活動に関する企業等と地域双方のニーズ・条件等に関する調査研究は十分にできておらず、マッチングには至っていない。

③課題の背景や現状

- ・区役所と市民センターや自治会、文化やまちづくり団体等との定期的な意見交換の機会はあり、各地域の実情やニーズは把握しているが、その詳細な分析や、個別の支援メニュー案に関する研究までは十分にできていない。
- ・多くの企業等が集積する小倉北区の強みを活かして、企業等の地域活動への参加を促す取組を進めるためには、企業・地域双方のニーズ調査や先行事例等の情報収集、モデル事業の試行などが必要である。

④目指す成果 －市民にとって何がどう変わらるのか(サービスの質や価値、市民の実感)－

- ・地域の実情やニーズを分析することで、よりそれぞれの地域の特性を踏まえた支援メニューの研究・提案が可能となる。
- ・特性に合わせた支援により、各地域における活動が活性化し、自助、公助の取組が進むことで、地域活動の自立性、持続可能性が高まる。
- ・企業と地域双方のニーズにマッチした事業の実施により、人材や場・機会、資金、情報等といった地域資源の循環・活用が促進され、地域活動の自立性、持続可能性が高まる。

⑤令和7年度の取組内容(四半期間隔)

(1)地域の実情・ニーズの分析と支援メニューの研究、提案

区が把握している地域の実情・ニーズについて、さらに詳細な分析を行い、それぞれの特性を踏まえた支援メニューを研究し、必要に応じて、地域へ提案する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・地域の実情・ニーズの整理・分析	・支援メニューの研究	・(必要に応じて)地域への支援メニュー提案	・(必要に応じて)地域への支援メニュー提案、振り返り

(2)地域活動参画に対する自治会等と企業等の双方のニーズや条件の調査研究

市民センターや自治会等が主体となって行う地域活動に、企業や学生、NPO等、新たな外部マンパワーの参画を促進するため、地域活動参画に対する、自治会等と企業等の双方のニーズや条件等の調査研究を行う。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・地域活動に対する企業の参画状況の確認等	・地域・企業のニーズや条件の調査研究(地域・企業へのヒアリング等)	・地域・企業のニーズや条件の調査研究(他都市事例の確認等)	・新たな外部マンパワーの参画促進に向けた関係者調整等

⑥進捗状況(令和7年12月時点)

●取組内容(1)地域の実情・ニーズの分析と支援メニューの研究、提案

支援内容を検討するにあたり、令和7年9月までに、区内全ての市民センターを回り、市民センター館長とまちづくり協議会会长等へのヒアリング及びアンケート調査を実施した。

この結果、各校区が抱える課題や状況、ニーズはそれぞれ異なることが改めて明らかになったため、地域の状況・課題について、(2)の取組みと合わせ、自治会等と大学等の外部団体双方のニーズや条件を整理している。

今年度から来年度にかけ、多くの校区で会長職等、地域団体幹部の交代が予定されていることが判明したため、今年度は課題や条件の整理に注力することとし、新年度に新たな団体幹部等と個別の支援メニューについて協議する。

●取組内容(2)地域活動参画に対する自治会等と企業等の双方のニーズや条件の調査研究

(1)の取組みにおいて自治会側のニーズは概ね把握できたため、事例調査や他団体へのヒアリングを進めているところ。

年度内に、特に大学等の地域活動参画への意欲と地域からの支援ニーズが高い校区等をモデルに関係者調整等を進めることとしている。

課題B（2）地域における外国人との共生 【政策分野：まちづくり】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:低】

②課題の内容

- ・市内で最も外国人住民が多い小倉北区において、外国人住民と地域住民の間で、双方の文化や生活マナーに関する理解が深まることや、外国人住民が地域とより深く関わることは、今後、持続可能な地域コミュニティを形成するうえで、必要不可欠な要素である。
- ・このため、小倉北区では、外国人住民が比較的多い地域等において、外国人住民に対する生活情報やマナーの周知、地域活動への参加・交流の促進につながる取組が必要である。

③課題の背景や現状

- ・小倉北区は、北九州市の中心であり、多くの商業施設やオフィスが集積しているため、市内で最も多くの外国人労働者や留学生が居住している。
- ・しかしながら、これらの外国人住民は、地域住民とのつながりが弱いこと多く、文化や生活マナーの違いなどから、地域住民との間に誤解や摩擦が生じることがある。
- ・また、日本語能力の不足によって、日常生活等においてコミュニケーションに支障が生じ、情報が十分に届かず、必要な行政サービスを受けることができないということにもつながる。

④目指す成果 －市民にとって何がどう変わらのか(サービスの質や価値、市民の実感)－

- ・外国人住民が比較的多い地域等において、マナー周知・啓発などのモデル事業を試行することにより、外国人住民と地域住民の間で、双方の文化や生活マナーに関する理解が深まることで、誤解や摩擦が起きにくくなる。
- ・外国人住民が比較的多い地域等において、地域との交流のモデル事業を試行することにより、外国人住民と地域住民のつながりを強化することで、地域活動における新たな担い手としての役割も期待できる。

4 課題

課題B（2）地域における外国人との共生 【政策分野：まちづくり】

⑤令和7年度の取組内容(四半期間隔)

(1)地域コミュニティと外国人住民をつなぐ取組の先行実施

市内でも外国人住民の多い小倉北区において、生活に必要な情報やマナーの周知や地域活動への参加・交流の促進など、外国人住民が地域コミュニティと共生できるよう、啓発事業や交流事業などのモデル事業を試行する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・地域の実情・ニーズの整理・分析	・先行事例等の研究 ・取組内容の企画	・地域における取組の試行	・地域における取組の試行、振り返り

⑥進捗状況(令和7年12月時点)

支援内容を検討するにあたり、令和7年9月までに、区内全ての市民センターを回り、市民センター館長とまちづくり協議会会長等へのヒアリングを実施した。

この結果、一部校区においては、近隣の日本語学校等との交流事業を実施しているが、これらの既存の取組みに加え、特に外国人住民が多い校区において、専門的知識を有する人材を招聘した交流事業を実施することや、生活情報の周知方法などについて、更に企画検討を進めているところである。

これらの新たな取組みの実施にあたって、より効果的な手法をとるためには、予算及び一定の知識や専門性を有する人材の活用が必要となることから、実施内容の詳細を本庁の国際関係部署と協議し、来年度の関連する予算要求を行っているところである。

4 課題

課題B（3）小倉北区内の観光資源の掘り起こし・情報発信の強化、並びに 区の垣根を超えた観光ルート等の造成 【政策分野：観光大都市への進化】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:低】

②課題の内容

- ・小倉北区には、小倉城などのメジャーな観光スポット以外にも、魅力ある場所や歴史資源等が多く存在するが、まだ、「知る人ぞ知る」という観光資源も多い。
- ・小倉北区は、交通の結節点で、歴史的な観光資源が数多くあり、飲食や宿泊等の観光関連業も集中するエリアである一方、隣接する小倉南区には、平尾台など豊かな自然があり、食材の宝庫でもある。しかしながら、観光情報等の発信は、各区が個別に行っており、相乗効果を発揮できていない。

③課題の背景や現状

- ・小倉北区では、区のSNSによる情報発信に加え、地域、まちづくり団体、顕彰団体、市民ボランティア、大学等と連携しながら、区の魅力の掘り起こしや情報発信の強化を図っている。
- ・例えば、区主催のカメラ講座に参加し、公認カメラマン就任に賛同いただいた市民センター（現在22名）が、写真の撮影を通して「小倉の魅力」を発見・体験し発信していく取組「トリ×キタ」を実施している。
- ・また、区と西南女学院大学観光文化学科が協働して、Z世代の若年層（10代後半から20代前半）に向け、インスタグラム等で、小倉北区の魅力発信を行う「コクラニキタイ」プロジェクトを実施している。
- ・さらに、今年度は、小倉市制125周年事業として、南北区役所が連携してモノレールを活用した周遊イベントを企画している。

④目指す成果 –市民にとって何がどう変わらのか(サービスの質や価値、市民の実感)–

- ・小倉北区の観光資源や史跡について、地域、まちづくり団体、顕彰団体、市民ボランティア、大学等と連携しながら、更なる掘り起こしや情報発信の強化を図ることで、市内外における観光地としての小倉北区の注目度・認知度がアップし、街に更なる賑わいが生まれる。
- ・今年度は、単区だけでなく、広域にも観点を置き、小倉北区・小倉南区の両区の持つ観光資源を融合させ、活性化することで、本市の観光大都市としてのポテンシャルがさらに高まる。
- ・今年度のモデル事業の成果を踏まえ、小倉北区・小倉南区が協働して、個性の異なる両区の垣根を超えた観光ルート等の造成など、プラスアルファの区観光資源の開発等の取組が進む。

課題B（3）小倉北区内の観光資源の掘り起こし・情報発信の強化、並びに
区の垣根を超えた観光ルート等の造成 【政策分野：観光大都市への進化】

⑤令和7年度の取組内容(四半期間隔)

(1)小倉北区内の観光資源の掘り起こし・情報発信の強化、区の垣根を超えた観光ルート等の造成
区のSNSによる情報発信に加え、地域、まちづくり団体、顕彰団体、市民ボランティア、大学等
と連携しながら、区の魅力の掘り起こしや情報発信を強化するとともに、小倉北区・小倉南区が
連携して、モノレールを活用した周遊イベントをモデル的に実施する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の発掘・洗い出し、情報発信の強化 ・小倉南北区の周遊イベントの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の発掘・洗い出し、情報発信の強化 ・小倉南北区の周遊イベントの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の発掘・洗い出し、情報発信の強化 ・小倉南北区の周遊イベントの準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の発掘・洗い出し、情報発信の強化 ・小倉南北区の周遊イベントの実施

⑥進捗状況(令和7年12月時点)

観光客や市民に、近場のちょっとした観光を味わってもらうため、小倉南区と連携し、区の垣根を超えたプチ観光ツアーを企画。「モノレールでつなぐ！北九州“陸・海・空”発見と感動ツアー」と銘打ち、北九州モノレール、観光コンベンション協会といった関係機関ともタイアップして商品造成を行った。小倉競馬場、スターフライヤー、名門大洋フェリー等の協力も得て、競馬場のバッカヤードなど、普段は観覧・体験ができない貴重なスポットを周遊するとともに、クーポン配布による小倉駅近隣店舗の利用を促す3つのツアーを12月に実施済み。県外在住者や外国人を含む延べ190人が参加し、3つのツアー全てが完売となった。

また、区の情報発信力の強化を目的として、市に派遣中のTV局職員等に講師を依頼し、動画編集などの実践的な広報研修を実施した。

4 課題

課題C（1）小倉北区役所庁舎のあるべき姿の実現に向けたプランづくり 【政策分野：区役所改革】

①インパクト(政策課題)と緊急度のマトリクス 【インパクト:高】 【緊急度:低】

②課題の内容

・小倉北区役所庁舎において、市民目線を最優先したレイアウトや待合スペースの拡充、職員の柔軟な働き方が可能となるフリーアドレス化や資料保管スペースの見直しなど、市民・職員がストレスなく過ごすことができる区役所・オフィスの実現に向けて、未来志向による区役所庁舎のあるべき姿についての研究やプランづくりが求められている。

③課題の背景や現状

- ・小倉北区役所庁舎は、築年数が古く老朽化が進んでいることに加え、1階の市民フロアなどは、複数の窓口や部署等が建設後に増設され、継ぎはぎのレイアウトとなっており、動線がわかりにくく、待合スペースも少ないなど、市民にとって快適な環境とは言えない状況である。
- ・執務室においても、紙書類の保管にスペースをとられ、十分な通路や打合せ場所、休憩所等がとれておらず、日常的にやり取りする必要のある部署が別フロアに分かれているなど、職員にとって働きやすい機能的なオフィス環境とはなっていない。

④目指す成果 – 市民にとって何がどう変わらのか(サービスの質や価値、市民の実感) –

・小倉北区役所庁舎において、市民目線を最優先したレイアウトや待合スペースの拡充、職員の柔軟な働き方が可能となるフリーアドレス化や資料保管スペースの見直しなど、未来志向で区役所庁舎の全面的な環境改善を行うことで、市民・職員がストレスなく過ごすことができる区役所・オフィスとなる。

⑤令和7年度の取組内容(四半期間隔)

(1) 小倉北区役所庁舎のあるべき姿の実現に向けたプラン素案づくり

市民目線を最優先した市民フロアのレイアウトや職員の柔軟な働き方が可能となるオフィスの見直しなど、市民・職員がストレスなく過ごすことができる区役所・オフィスの実現に向けて事例等の調査研究を行い、未来志向で、小倉北区役所庁舎のあるべき姿の実現に向けたプラン素案づくりに着手する。

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・事例等の調査研究	・事例等の調査研究	・プラン素案の方針検討	・プラン素案づくり

⑥進捗状況(令和7年12月時点)

令和7年5月に、新規採用職員や異動直後の職員による庁舎点検を実施。より市民に近い感覚・視点で、庁舎の課題と改善策を検討。併せて、若手職員によるプロジェクトチーム(MOUP)により、案内サインの改善やポスター・チラシ等掲示物のルール作りなどについて検討を進めている。

この動きと並行して、令和7年11月に、小倉北区の課長級による「小倉北区役所庁舎フロアプラン検討ワーキング」を設置し、今後の区役所のあるべき姿や庁舎の活用策、各執務スペースの改善アイデア等について意見交換を実施。年度末に向けてプランの素案作りに着手。

これらの取り組みを踏まえ、東棟3階執務スペースの環境改善を目的としたレイアウト変更プロジェクトを開始。庁舎全体の改善に向けた先行事例として、年度末にレイアウト変更を実施予定。